



7月17日決壊した下内川・上渡橋左岸堤防(白沢)

ら操業を開始してきましたが、埋蔵見込み鉱量百二十万トンの全量採掘済みによる枯渇のため、九月末日で終掘することになりました。従業員二十九人については、同社の深沢鉱山、松峰鉱山に配置替えをすることになっていきます。

降雨災害について

六月十日の梅雨入りとともに継続的な降雨があり、特に六月十二日、十三日では一〇七mmの降水量を、また七月十六日から二十日まででは十七日に一二〇mmの降水量を記録しました。降雨によって発生した災害は次のとおりです。

土木災害は、六月十二日、

十三日の降雨では道路一カ所、河川四カ所に被害が発生し、被害額は約一千二百八十六万五千円。更に、七月十六日から二十日までの降雨では道路八カ所、河川六カ所に被害が発生し、被害額は約五千四百四十万円でした。

農業災害は、七月十七日の降雨で水稲の冠水が川口地区で約十ヘクタール、沼館地区で二ヘクタールありましたが、出穂前のため直接的な被害はありませんでした。しかし、農地及び農業用施設では畦畔、農道、水路など六十二カ所、林道及び治山などでは八カ所に被害が発生し、被害額は約一億一千四百九十六万円の見込みです。

市では、それらの災害を国の査定を得て、早急に復旧したいと考えています。

稲の生育状況について

今年の稲の初期生育は好天に恵まれ順調でしたが、生殖生長期に長雨、日照不足、低温が続いたため、その影響が深刻化しました。特に、出穂期に低温が重なったため、不稔障害、病虫害の発生が心配されることから、八月九日に緊急農作物異常気象対策会議を開きました。対策会議では、農作物の技術対策情報のチラシを全農家に八月中旬配布し、登熟期の水管理と病虫害

の徹底防除及び畑作物への排水管理を呼びかけました。これからの確かな情報を提供していくことにしています。

また、市農業総合指導センターがあきたこまち、キヨニシキを中心にして八月二十日不稔障害調査を実施したところ、全体的には平年よりやや少ない状況でした。今後の天候が良くなることで、出来秋に期待しています。

大館能代空港実現の取り組み状況について

大館能代空港早期実現を図るため、建設促進期成同盟会が発足してから四年目になります。また、同盟会を側面から支援するために設立した大館地域推進会議も三年目になります。その間、同盟会を主体として、国の関係機関、国会議員、航空会社への陳情等を精力的に行ってきた。

今年の五月二十五日に開催された「ふるさと創生講演会」には約三千人が参加して、出席した村岡運輸大臣に、空港実現を強く働きかけましたし、七月五日に本市で開催された「秋田エアフロントフォーラム」においても、約四百人の参加者全員が空港の必要性を確認し合いました。そして、七月三十一日、東京マツヤサロンで開催された中央大会は、運輸大臣をはじめ



東京で開催された中央大会

関係国会議員などが来賓として出席の中、県北在住者、在京の人、県や期成同盟会関係者など約五百人が参加し、会場いっばいに熱い願いがみなぎり、盛會裏に終わりました。中央大会終了後、佐々木知事をはじめとした代表者が運輸省、航空会社等へ陳情に出向いたところ、それぞれの陳情先で空港実現への可能性をほのめかす感触を得てきました。

大館能代空港が国の第六次空港整備計画に組み入れられるかは、十一月下旬に予定されている航空審議会の答申を受けた後に閣議決定される見通しです。そのため、空港実現にはこれから十月末までの運動にかかっています。同盟会ではこれから十月末にかけて波状的な陳情を計画していますので、大館地域推進会議でも同盟会と呼応しながら、空港実現に向けて最大の努力をしていきます。

大館第2工業団地の整備計画について

県では、これまでの県内「九ブロック十団地構想」の見直しを図るとともに、新たに企業の立地ニーズに対応するため、平成三年度から十二年度までの十年間を目標とした新規工業団地整備構想を策定しました。新構想の前期五カ年計画では、昭和町、本莊市、横手市、大館市の四地区に工業団地を設定し整備することになっています。

大館市については、現在の二井田工業団地の隣接地に、約五十四ヘクタールの団地を整備するものです。三年度事業は三カ所のボーリング調査が八月に終了して、今後は五十四ヘクタールの計画地域の確定作業を行う予定となっています。

市では、この団地の核となる男子型、無公害の優良企業の誘致に向けて、県の協力を得ながら取り組んでいきます。

その他の行政報告

- △秋田短期大学誘致運動の取り組み状況について
- ▽大館大文字まつりについて
- ▽おおだて「米の日」について
- ▽外国青年招致事業について